

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」

一人一人の子供が主役となる学びへの転換
～ICTの活用による個別最適な学びの推進～

子供の興味・関心等に応じて一人一人の学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することにより、子供が自己調整しながら粘り強く学習に取り組むことができるようにしています。

学習者用デジタル教科書やクラウドサービス等を活用することにより、「個別最適な学び」の質が高まると考えられます。学習者中心の授業づくりには、ICTの活用が大きな役割を果たします。

- ・タブレット端末を使用した問題配信と、参考資料の配信。
必要に応じて参考資料を活用し、各自のペースで解答を作成。
- ・明快に説明をしているグループや個人を選び、全体の前で説明をしてもらい、生徒の学習の理解につなげる。
- ・スライドや動画、AIドリル等のICTを適切に選択できるようにすることで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。



【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」

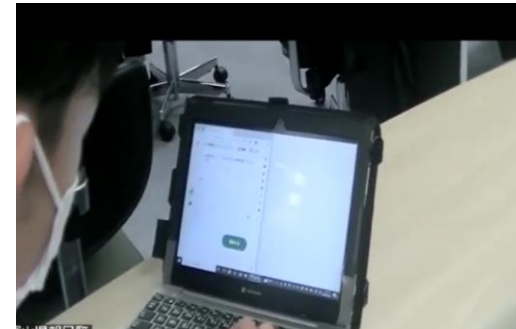
不登校や病気療養児童生徒へのオンライン支援 ～学びたい子供たちへ 学びの場の工夫～

「学校に行きたくても行けない」「学校には行けないけど勉強したい」「教室のみんなと繋がってほしい」という子供たちの不安な気持ちに寄り添う手立ての一つとしてオンライン支援があります。各家庭や教育支援センター、校内教育支援センター等、様々な子供の居場所を「学びの場」とすることが可能になります。



自分のペースで自分に合った問題を ～朝学習におけるAIドリルの活用～

家庭学習、授業だけでなく朝学習でもAIドリルを活用しています。AIドリルは、一人一人の理解度やニーズに応じた問題が自動的に出題され、回答に対して即時評価をすることができます。子供たちは、自分のペースで自分に合った問題に取り組むことができます。また、教師は子供が問題にかけた時間や正答率、どのように答えたのかを把握でき、それを基に個のニーズに応じた支援をしています。



【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

持ち物も個別最適なものへ ～必要な物を自分で考える力を育てる～

教科書・資料集を学校に置いたままにし、タブレット端末と筆記用具等、必要最低限のものをかばんに入れて登下校する「らくらく登校」を実施しています。アンケートでは、保護者の約9割、児童生徒の約8割が肯定的な評価をしています。携行品の軽減という面だけでなく、学校と同様に家庭でもタブレット端末やデジタル教科書を活用することで、学びの継続が円滑になります。



【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

学級閉鎖や大雪等での臨時休業時にも学びを止めない ～端末を活用し双方向で～

子供たちは、毎日タブレット端末の持ち帰りを行っています。そのため、大雪等の自然災害時や感染症流行時における臨時休業等の緊急時でも常に端末が手元にあります。教育用クラウドサービスで各家庭へ学習課題を提示したり、ビデオ会議システムで双方向のオンライン授業を行ったりと様々なシステムを活用することで、児童生徒の状況に応じて学習支援を行うことができます。



自分だけにカスタマイズされた家庭学習 ～A Iドリルの活用による家庭学習の充実へ～

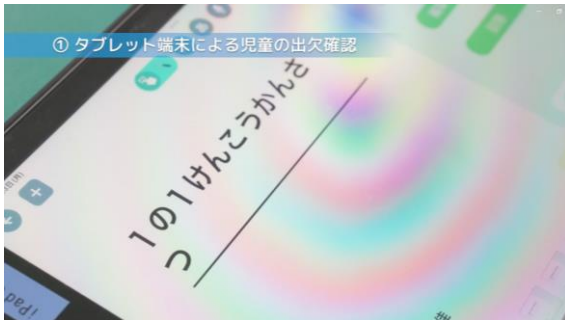
A Iドリルを活用した家庭学習では、子供は自分の強みや課題を確認しながら、それぞれのペースで学習を進めています。学習につまづきが認められれば、A Iドリルはそれを補完するための情報を提供してくれます。

学習の進捗状況や定着度を保護者や教員も確認することができます。学習履歴を活用することにより、一人一人に応じた適切な支援が可能となります。

三 算数・数学						
進捗率: 177問		正答率: 92%	学習時間: 1時間 22分			
問題ID	問題内容	正答率	平均学習時間	標準偏差	学習履歴	解説
1001	1001	100%	10分	15%		
1002	1002	95%	10分	15%		
1003	1003	90%	10分	15%		
1004	1004	85%	10分	15%		
1005	1005	80%	10分	15%		
1006	1006	75%	10分	15%		
1007	1007	70%	10分	15%		
1008	1008	65%	10分	15%		
1009	1009	60%	10分	15%		
1010	1010	55%	10分	15%		

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

子供の身体と心の状態は？ ～登校前の健康観察・欠席連絡～



登校前に家庭でオンラインによる健康観察を行います。子供は健康状態を自分で確認してから登校します。学校では、入力された情報を担任が確認し、子供を教室で迎えます。感染症等の拡大防止にもつながります。

入力フォームには悩みを相談する欄もあります。直接相談しにくいことも、オンラインで担任等に相談することができます。不登校やいじめ等の未然防止にも効果が期待できます。

保護者から欠席連絡が入ると、連絡を受けた教員が職員室からクラウドサービスのチャット機能を利用して担任に知らせています。これによって、担任が教室で健康観察時までに登校していない児童について職員室へ戻らなくても、教室で確認できるようになりました。

職員会議はタブレット持参 ～資料のペーパーレス化～

クラウドサービスの承認機能を活用し、一部の文書を起案しています。データ文書を直接加除修正することができるため、業務量の減少につながっています。

職員会議においては、クラウドを活用し、ペーパーレス化を図っています。資料を印刷したり職員全員に配布したりする作業を省略することができるのと同時に、資料をデータで残すことで管理面においてもメリットがあります。職員連絡をクラウドで行い、職員全員で情報の共有と共通実践することにつながっています。

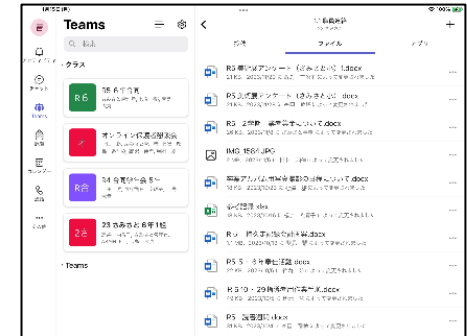
【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

みんなで同時に共有・編集 ～クラウド活用による資料作成～

クラウド上で資料を作成します。複数名で同時に共有したり編集したりすることが可能になります。これまでUSB等でやりとりしていたファイルをクラウドで管理することになり、メディア等の紛失による情報漏洩のリスクをなくすることができます。

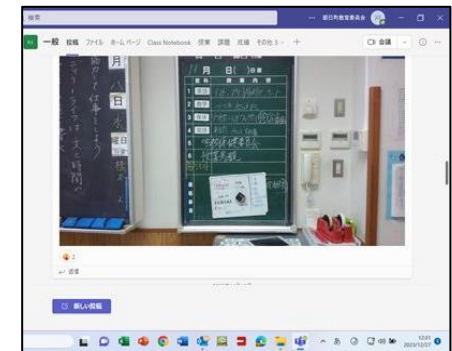
また、学校間における資料の作成にも活用することができます。作業が大幅に削減され、これまで保存時に生じていたミスがなくなります。

研修会においても、クラウドを活用しています。事前研修の際に、クラウド上で指導案を検討したり、授業の感想を伝え合ったりして研修を深めることができます。



連絡・配布物のデジタル化 ～個に応じたサポートを～

日々の時間割や配布されるプリントをクラウドで共有することで、欠席した生徒が自宅で時間割を見たり、重要な連絡やプリントをタブレットで確認したりすることができます。また、予定表等をタブレット上で画像として確認できることは、文字を書いたり読み取ったりすることが困難な生徒への配慮につながっています。子供は場や時間を問わず、日々の連絡や時間割を確認し、困ったことがあればチャット機能を活用して担任に質問するなど効果的にタブレットを使用しています。



【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

保護者との連絡 ～おたよりやアンケートの配信～

お知らせやおたより等の案内をクラウドを活用して保護者に配信しています。アンケート実施の際には、アンケートフォームを活用し、保護者一人一人に配信し回答を収集しています。学校からの緊急連絡等がある場合には、一斉メールを活用し、保護者に知らせています。週予定等をクラウドで共有します。保護者もそれを見て学習の様子を把握することができます。また、希望があれば、保護者との個別面談をオンラインで行うこともあります。



子供、先生のGIGA端末の活用状況について動画にまとめました。是非ご覧ください。

子供の1日におけるGIGA端末の活用
https://youtu.be/t_QVU07Ip0

先生の1日におけるGIGA端末の活用
<https://youtu.be/pj15n8IAcjl>